



Tohoku University Marine Science Center (TEAM)

東北マリンサイエンス拠点形成事業
～海洋生態系の調査研究～



文部科学省

東北マリンサイエンス拠点形成事業
「海洋生態系の調査研究」公開シンポジウム

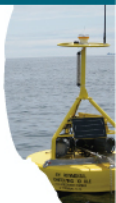
東北の海は どうなったか？

日時：2013年11月15日(金)
13:30-17:00 (開場 13:00)

場所：東海大学校友会館

主催：東北マリンサイエンス拠点形成事業
東北大学・東京大学・海洋研究開発機構
文部科学省

後援：復興庁





東北の海は怎么样了か？

プログラム

1. 開会挨拶：文部科学省

2. 基調講演：我々は何をすべきか～復興における森と海～

C.W.ニコル (Clive William Nicol: 作家・環境保護活動家・探検家)

3. 東北の海は怎么样了か

3-1. 海の生き物は怎么样了か～漁業再生への取り組み～ 原 素之 (東北大学)

3-2. 海の環境は怎么样了か 永田 俊 (東京大学)

3-3. ガレキは怎么样了か 藤原義弘 (海洋研究開発機構)

4. パネルディスカッション

モデレーター：瀧澤美奈子 (科学ジャーナリスト)

パネリスト

碓川 豊 (岩手県大槌町長)

鈴木公義 (宮城県川町町会議員)

木島明博 (東北マリンサイエンス拠点形成事業代表・東北大学)
文部科学省

5. 閉会挨拶：田中 克 (東北マリンサイエンス拠点委員会主査 (財)国際高等研究所チーフリサーチフェロー)

<基調講演> 我々は何をすべきか～復興における森と海～

C.W.ニコル (作家・環境保護活動家・探検家)

英国南ウエールズ生まれ。17歳でカナダへ渡り、その後カナダ水産調査局北極生物研究所の技官として、海洋哺乳類の調査研究に当たる。以降、北極地域への調査探検は12回を数える。

1967年より2年間、エチオピア帝国政府野生動物保護省の獣区主任管理官に就任。シモン山岳国立公園を創設し、公園長を務める。

1972年よりカナダ水産調査局淡水研究所の主任技官、また環境保護局の環境問題緊急対応官として、石油、化学製品の流出事故などの処理に当たる。

1962年に空手の修行のため来日。

1980年、長野県に居を定め、執筆活動を続けるとともに、1986年より、森の再生活動を実践するため、荒れ果てた里山を購入。その里山を「アファンの森」と名付け再生活動を始め。

2002年、「アファンの森」での活動や調査等をより公益的な活動を全国展開するために、「財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団法人」を設立し、理事長となる。

1995年7月、日本国籍を取得。

2005年、英国エリザベス女王陛下より名誉大勲章を賜る。



木島 明博

(きじま あきひろ)

東北マリンサイエンス拠点形成事業代表・東北マリンサイエンス拠点形成事業代表委員。東北大学大学院農学研究科教授、東北大学副理事、総長特別補佐、東北大学高等教育推進センター長ほか。東北大学大学院農学研究科博士後期課程修了、農学博士。専門は海洋生物学、水産資源学、水産保全学。科学的知見に基づく環境問題の解決、水産資源の持続的利用、学習の普及による沿岸市町村の復興・新生を目指している。



原素之

(はら もとゆき)

東北大学大学院農学研究科教授。東北マリンサイエンス拠点形成事業では「漁場環境の変化プロセスの解明を担当。専門は水産増殖学・遺伝育種学。東北大学大学院農学研究科修士課程修了。農学博士。主な著書に「水産資源の増殖と保全」(成山堂書店)など。



永田 俊

(ながた とし)

東京大学大気海洋研究所教授。東北マリンサイエンス拠点形成事業では「震災に伴う沿岸域の物質循環プロセスの変化に関する研究」を担当。専門は微生物生態学・海洋生物地球化学。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士。主な著書に「Microbial Ecology of the Oceans」(John Wiley & Sons)など。



藤原 義弘

(ふじわら よしひろ)

海洋研究開発機構 チームリーダー。東北マリンサイエンス拠点形成事業で「沖合証層生態系の変動メカニズムの解明」を担当。専門は深海生物学。筑波大学修士課程修了。理学博士。主な著書に「深海のすべてが変わった生きもの」。



碓川 豊

(いかりがわ ゆたか)

岩手県大槌町長。昭和44年大槌町役場に入庁。水産商工課長、総務課長などを歴任し、平成22年大槌町役場を退職。平成23年8月より現職。震災復興に向けて最前線で指揮をとる。著書に「希望の道 逆境から発芽する町」(明石書店)。2011年8月より現職。震災復興に向けて最前線で指揮をとる。



鈴木 公義

(すずき きみよし)

宮城県川町町議会議員。宮城県漁業協同組合川町支所運営委員。宮城県漁業士会会長。川町漁協青年部会長。宮城県漁業連合会会長などを歴任。自ら力半養殖業、定置網業を営み、地域の復興、水産業の復興に向けて東奔西走している。



瀧澤 美奈子

(たきざわ みなこ)

科学ジャーナリスト。東北マリンサイエンス拠点形成事業代表委員。内閣府社会政策推進委員会委員。文部科学省科学技術庁審議会臨時委員。お茶の水女子大学理学研究科物理学専攻修了。主な著書に「日本の深海」(講談社)、「地球温暖化後の社会」(文春新書)、「深海の不思議」(日本実業出版社)など多数。



田中 敏

(たなか さとし)

文部科学省研究開発局長。東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻修了。昭和55年に科学技術庁に入庁し、研究開発局海洋地球課長、独立行政法人海洋研究開発機構経営企画室長、筑波大学理事、副学長、文部科学省大臣官房総括審議官などを歴任。





東北マリンサイエンス拠点形成事業 —海洋生態系の調査研究—

文部科学省 <http://www.mext.go.jp>

課題1 漁場環境の変化プロセスの解明

東北大学

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/>

委託機関

北里大学・ヤンマー株式会社

課題2 海洋生態系変動メカニズムの解明

東京大学大気海洋研究所

<http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/>

委託機関

東京海洋大学・岩手大学

課題3 沖合底層生態系の変動メカニズムの解明

課題4 東北マリンサイエンス拠点データ共有・公開機能の整備・運用

海洋研究開発機構

<http://www.jamstec.go.jp/j/>

委託機関

東海大学

参画機関

北海道立総合研究機構水産研究本部・北海道大学

岩手県水産技術センター・岩手医科大学

宮城県水産技術総合センター・石巻専修大学

国立科学博物館・東京農工大学・東邦大学

静岡大学・京都大学・福山大学・広島大学

山口大学・愛媛大学・九州大学・他